

美術館教室

米蔵の照度体験 ナイトミュージアム

藤田嗣治は、1937年2月から3月にかけて平野家の米蔵の中で、壁画《秋田の行事》を制作しました。薄暗い米蔵の中、制作は人工光、つまり当時の電球の明かりの下で進められており、その照度等は秋田県立大学准教授・込山敦司氏の研究により判明しています。画面を照らす範囲は限られていましたが、それにもかかわらず、色彩のバランス、人物の表情や着物の細密な模様が的確に表現されています。

このたびの教室では、米蔵の構造などについて込山氏がレクチャーをした後、閉館後の展示室にて、調光器の操作により制作時の米蔵の照度と色温度（灯りの色彩）を再現。藤田の制作の秘密に迫ります。

講師 込山 敦司 氏（秋田県立大学建築環境システム学科 准教授）

開催日時 2017年5月14日（日）18:00～19:30

場 所 秋田県立美術館 1Fレクチャールーム、2F大壁画ギャラリー

対 象 一般（中学生以上）

定 員 30人

参加費 無料

参加方法 電話、またはFAXで、以下の内容をお知らせください。

①お名前 ②ご連絡先（電話番号/FAX番号）

主催：公益財団法人 平野政吉美術財団

秋田市中通一丁目4-2

TEL:018-853-8686

FAX:018-836-0877